

1 学校教育目標

- (1) 意欲的に学び、主体的に判断し、自律的な行動ができる人間の育成  
(2) 社会の変化に対応し、豊かに逞しく生きることができる人間の育成  
(3) 探究心を持ち、協働して新たな価値を創造しようとする人間の育成

2 今年度の重点目標

I C Tを効果的に活用した教育活動を推進し、本校教育の質の向上を図る。

3 自己評価結果 下表「達成状況」

評価基準 A：達成している、B：おおむね達成している、C：やや不十分である、D：不十分である

4 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である、C：やや不適切な評価である、D：不適切な評価である

(2) 改善に向けた取り組みの適切さ

A：十分な効果が期待できる、B：ほぼ十分な効果が期待できる、C：あまり効果が期待できない、D：まったく効果は期待できない

領域	重点事項	評価の観点	達成状況	改善・充実の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取り組みの適切さ
学習指導	(1) 授業規律を徹底して学習習慣の定着を図り、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	(1) 授業規律の徹底により学習習慣の定着を図ることや、授業や朝活動を通して基礎的・基本的な知識・技能を習得させることができたか。	B	朝学習等の取り組みを通じて、落ち着いた学習に取り組む姿勢が定着してきた。新しい時代に対応できる「知識・技能」を模索し、指導していきたい。	A	B
	(2) ICT を効果的に活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	(2) ICT を効果的に活用した授業に取り組み、実践例を共有できたか。	B	先駆的なICT活用を進めている教員・教科から全体に発信していく努力を重ねる。		
	(3) 指導と評価の一体化を図り、生徒の学習活動や指導方法の改善に生かす。	(3) 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づく観点別評価を適切に実施できたか。	A	3観点による評価は各教科で試行を重ねている。教科間で考え方や方法を共有し、生徒の成長につながる評価方法を模索する。		
	学校関係者の意見		(2)の改善充実の方策は具体策が必要。学習指導でのICT活用は難しい面もある。その他の場面（情報発信、保護者とのやりとりなど）での活用から広げていく。			
生徒指導	(1) 時間を守ること、挨拶すること、マナーを守ることなど、基本的な生活規律の遵守を徹底する。	(1) 分掌・年次・教科担の連携を図り、基本的な生活規律の遵守を徹底できたか。	A	外面を整えるだけではなく、なぜそれが必要なのかという指導をていねいに重ねていく。	A	A
	(2) 自他の生命を大切にさせ、他者を尊重し「いじめは絶対に許されない」という意識や態度を育成する。	(2) 授業やHR、学校行事等の機会を捉え、他者を尊重し「いじめは絶対に許されない」という意識や態度の育成に努めることができたか。	A	学校いじめ基本方針改訂作業の取り組みを通じて、自分や他者の人権を尊重する姿勢を涵養する。		
	(3) 情報モラルを身に付け、情報化社会に主体的に関わる態度を育成する。	(3) 教科・HR指導や講演会、各種資料を活用した啓発活動等の実施を通して、SNSの危険性など情報モラルの在り方について考えさせることができたか。	A	ポストトゥルース/生成AI時代の「情報モラル」指導に向けて、私たち教職員の常識や知識を更新していかなければならない。		
	学校関係者の意見		SNS における生徒同士の関係性は表面化しにくいところに指導の難しさがある。実情を把握する方策を検討することと知識を更新していく作業が欠かせない。			
進路指導	(1) 進路指導計画に基づく系統的な学習及び進路指導を通して、個々の進路実現に必要な能力を育成する。	(1) 各種模試等のデータ分析とフィードバックを適切に行い、個々の生徒の状況に応じた進路指導を行うことができたか。	A	一人一台端末の活用で、生徒自らが自己のデータを正しく分析し、自己調整することができる能力を育成する。	A	A
	(2) 主体的な進路選択・進路実現に向けて、生徒・保護者に対し個々の状況に応じた適時・適切な情報提供・支援に努める。	(2) 二者面談や三者面談、進路セミナーやガイダンス等の計画的な実施を通して、生徒や保護者に適切な情報提供を行うことができたか。	A	端末を活用し、生徒・保護者との連絡・情報交換を緊密におこなっていく。		
	(3) 自己の在り方生き方を考えさせ、主体的に進路を選択する能力を育成する。	(3) 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」における探究活動の過程や成果を自己の在り方生き方に反映させながら、進路目標設定に導くことができたか。	B	低年次段階からの探究活動を通じて、生徒が自分自身の興味関心の向きを把握できるよう促していく。		
	学校関係者の意見		地域とのつながりが薄い都市部の学校では探究課題を見つけること自体が難しいのかもしれない。探究も大事だが、多感な時期に「生きること」などをテーマに深く考える機会を持つことも大事である。			
健康・安全指導	(1) 感染予防や自らの心身の健康に対する意識を高め、管理できる力を育成する。	(1) 健康相談やチェックシート、保健だより等を活用して、自分自身の健康状態を把握させ、感染予防や健康管理の意識を高めることができたか。	A	現在、生徒の心身の健康センターとして保健室に機能が集中している。「教育相談室」の役割を高め、困難を抱える多くの生徒に対応していく。	A	A
	(2) 生徒の多様な実態や一人一人が抱える課題を把握し、迅速かつ組織的に対応できるような教育相談体制の充実を図る。	(2) 心の悩みを抱えた生徒の状況や対応の仕方について、教員間で共有し、保護者、SC、専門機関等との連携を図り、適切に支援できたか。	A	教職員では解決できない事例が増えているため、SCやSSWの常駐が期待される。		
	(3) 安全確保のために必要な事項を理解させ、安全な生活を送ることができる資質・能力を育成する。	(3) 防災・防犯・交通安全に関する取組を通して、日常の様々な危険について自ら判断し、自他の安全に配慮した適切な行動をとらせることができたか。	A	今にも起きるかもしれない不測の災害に備えるため、危機管理マニュアルの整理や日常的な訓練を実施していく。		
	学校関係者の意見		自殺願望などのケースに備える必要がある。外部講師による「命の授業」などを通じて生徒の心を動かす取り組みは継続していくべき。特別支援については外部機関とのつながりが大事である。			
働き方	(1) ワークライフバランスの視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進する。		B	教職員の心身のゆとりが、安全安心な学校づくりの第一歩となるという考え方を共有できる職場の雰囲気をつくっていく。	A	A
	(2) 部活動休養日等の完全実施など、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮する。		A			
	学校関係者の意見		達成感や満足感がない仕事が長時間におよぶのが問題である。精神的に追い込まれない工夫が必要。			